

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケア理念の中に”自分らしさ”と書かれてある。お一人おひとりの関わりを大切に、本人が望む生活を支援していくことを大事に行っている。	理念については1、2階のホールの壁に掲示し来訪者の目にふれるようにしている。家族に対しては利用契約時に理念に合わせホームの特徴を説明している。また、職員も利用者のケアに行き詰まった時、理念を振り返り、話し合いの場を持っている。また、職員に自分本位、馴れ合い等、理念にそぐわない言動が仮にあった時には個々に話し、理念にあった支援に徹するよう助言している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	一年を通して近隣の小中学校から行事の誘いを頂き、参加している。また、秋の地区祭りでは、ホーム前で神楽披露やお神酒の振る舞いをしてくださる。	代表者や管理者の立場で区費を納め、ホームとしても区の一員として活動している。地域の行事には参加出来るものについては参加している。地域のお祭りの時には「神輿」がホームに来訪し披露していただき利用者も楽しみにしている。地域の小学校の音楽会、運動会にも招待され楽しいひと時を過ごしている。地域の中学生もアルミ缶拾いの活動で得た「洗剤」をプレゼントするために毎年来訪し利用者と交流している。地域ボランティアの来訪も定期的であり「紙芝居」、「読み聞かせ」などを引き続き行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、近隣の小学4年生と数回交流を通して学び合う機会がある。初訪問では、関わり方がわからない子ども達であったが、訪問を重ねるうちに次第に楽しいひと時を過ごせるようになっていく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を行い、地区の将来に向けた取り組みや、ご家族様のご意見、市町村の抱える問題を学びながら、サービス向上に活かしている。	家族代表、区長、民生委員、救急救命士、小学校の校長、地域ボランティア、市高齢福祉課職員、ホーム関係者の参加で2ヶ月に1回開催している。利用状況、活動内容、職員研修などを報告し、テーマ討議、意見交換、話し合い等を行い、運営の向上に役立っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議のメンバーとして毎回参加され、ご意見やアドバイスを頂いている。	市介護保険課と地域包括連携として実施している「介護支援連絡会」には参加し情報交換等を行っている。介護認定更新調査は家族に連絡し手続きの上、調査員がホームに来訪して行われ立ち会われる家族もいる。市の介護相談員が3ヶ月に1回2名来訪し利用者で交流している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2ヶ月に1回委員会を開催し、現在行っている拘束について話し合っている。また、スタッフ会議でも会議の報告を行い、必要性について話し合っている。	現在外出傾向の強い利用者もなく、玄関は開錠されている。転倒防止、落下防止を図るため家族との話し合いの結果希望により、日中車イス落下防止ベルト使用の方や夜間4点柵使用の方おり、身体拘束等の適正化のための指針により細かく記録を取っている。市職員、家族、ホームの間で拘束についての検討会を2ヶ月に1回開き、適正な介護に向かって進めている。内部研修も年1回行い職員の意識を高め取り組んでいる。	

グループホームこだま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議で虐待についての勉強会を行い、理解し防止に努めている。また、身体チェックは頻繁に実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	近年、家族と疎遠になってきている方が増えている。入所時や環境の変化の際には、具体的な話し合いを行い対処できている。また、研修にも参加し事例を通して学ぶ機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、説明をしっかりと行っている。ホームの特徴を交え、質問や不安なことを確認し合い納得されている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議のメンバーとして2家族、利用者様にも参加して頂き、ご意見や要望を述べる機会があり、運営に反映している。	利用者の意向は日々接する中で言葉と表情でくみ取り支援に取り組んでいる。家族の来訪は平均すると月1回位であるが来訪の際には利用者の様子を細かく話している。家族会は年1回、5月～6月に行い、お好み焼きやおはぎ作りなどの食事会と全員で出来るゲームを行い親睦を深めている。ホームの便り「こだま便り」は3ヶ月に1回発行され、活動報告、行事予定、利用者の様子等を報告している。誕生日会には利用者の好きな物を昼食に出しお祝いしている、また、家族をお誘いし誕生会を開くことも検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個々の職員に耳を傾け働きやすい職場作りに努めている。	1～2ヶ月に1回スタッフ会議を行い、利用者個々の状況を確認し、行事予定の打合せ、研修参加後の報告会、主任を中心とした意見交換等を行い、ケアの向上に役立てている。目標管理制度が導入されており、1月に目標を発表し、出勤簿の裏に記載し、いつでも確認できるようにし、12月に振り返り、管理者がコメントし確認をしている。職員の健康を考え年1回ホーム負担で健康診断も実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年間収入の増減はあるが、できる限り給与水準の引き上げを検討している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実務者研修、介護福祉士の受験に対する費用のバックアップをしている。		

グループホームこだま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム交流会は以前行っていたが、最近、消滅してしまった。ケアマネ施設部会では、グループホーム相互の意見交換など積極的に行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常の会話の中からご本人の心配ごとや要望を傾聴し、より良い関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の精神面を理解し、ご本人の生活歴や好きなことに着目しながら支援に繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療的なニーズの高い方や、リハビリ支援が必要な方には、医療機関との連携を図りながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いが助け合って生活していると思っただけのように、役割を持った生活に繋げ、達成感が得られるよう、感謝の気持ちも伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には日頃の様子を伝え、ご本人様の気持ちや思いも伝えている。また、親睦会やクリスマス会での関わる機会も大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた際は、ゆっくりお話して頂けるよう配慮している。また、かかりつけの医院と連携を取りながら支援に繋げている。	近所の方、親戚、同僚の方より事前に来訪の連絡があったり、利用者の携帯電話に連絡が入り来訪されたりしている。来訪時にはお茶をお出し寛いでいただいている。全利用者の集合写真にコメントを入れた年賀状を家族に送付し喜ばれており、また、家族からも年賀状を頂いている。利用者同士の関係は中にリーダー的な方がいて纏まりもあり仲良く1日を過ごしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	夕方の体操では、個々に行くと継続は難しいが、皆と一緒にすることで頑張り励みとなり、ほぼ毎日行うことができている。		

グループホームこだま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後でも誕生日には、ご家族様と連絡を取り近況を伺い、精神面のフォローに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でコミュニケーションを取り、思いを汲み取れるよう心掛けている。	多くの利用者は意思表示の出来る状況で、若干名の方は表情、行動で意向を汲み取っている。入浴後の服選び等、利用者本人の意思に重きを置き、その日の体調にも合わせ押し付けにならない支援に取り組んでいる。スキンシップを取ることに力を入れ、特に1対1の入浴介助の時に本音が出るケースが多いので思いを汲み取るよう心掛け支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様と会話をしたり、ご家族様から話を伺い、生活歴を把握している。また、スタッフ会議でもひもときシートを活用し、生活歴や行動について話し合っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	3ヶ月に1回アセスメントの見直しを行い、お一人おひとり、違った過ごし方をされている。また、喜んで取り組んで下さることを発見し、役割のある生活へと繋げている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様お一人ずつに担当職員が相談やご意見を伺い、介護計画に反映している。また、長期目標が達成できるよう励まし支援に努めている。	職員は1~2名の利用者を担当している。モニタリングはケアプランに沿って管理者が行い、家族の来訪時に利用者の状況を話し、希望をお聞きし、基本的に3ヶ月に1回、落ち着いている方は4ヶ月に1回、プランの見直しを行っている。また、変化が見られた時は随時見直ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	チャートなどへの記録と共に、重要なことは口頭で伝えるなど情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状態に応じ、快適に過ごして頂けるよう心掛けている。		

グループホームこだま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区のお祭りへの参加をしている。玄関先で神楽引きをお出迎えし、毎年楽しみにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	常にご家族様へ異状があった場合や受診結果など細やかな報告をしている。ご家族様との信頼関係も築けている。	全利用者が入居前からの顔馴染みのかかりつけ医を利用している。体調に変化がなければ3ヶ月に1回の受診を基本とし、家族の付き添いや職員の付き添いで対応している。また、契約の訪問看護師が週1回来訪し、利用者の健康管理を行っている。歯科については必要に応じ協力歯科医への受診に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師や訪問看護師と情報交換を行い、早期治療に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は情報交換を行い、連携が取れている。また、定期的な面会を行い、状態の把握に努め、早期退院へ繋げている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	意思表示できる段階の時に、担当職員がご本人の最期について伺っている。また、終末に近づいてきた際、ご家族様や主治医へ医療的支援の判断資料として提供している。	重度化・終末期の指針があり利用契約時本人、家族に説明している。特に利用者本人とは1対1で話の出来る入浴時に最期はどうしたいかの希望をお聞きするようにしている。その状況に至った時、改めて本人の希望を踏まえ家族と話し、同意を頂き、医師や看護師と連携を取り、希望に沿った支援に取り組んでいる。本年度は1名の方の看取りを行い、家族からも感謝の言葉を頂き、また、利用者全員でお見送りもした。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えてマニュアルを作成し救急救命士による応急手当等の勉強会や訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議のテーマとして、地域の方と避難訓練を実施したり、消防職員講師の下、地域の災害対策について地域の方々と話し合っている。	春と秋の2回防災訓練を区長に参加をいただき実施している。そのうちの1回は消防署員参加で消火器の使い方の指導もいただいている。また、運営推進会議に合わせ訓練を行なうこともある。避難、消火、通報の訓練を行い、利用者は1階の駐車場と2階のペランダまで避難して訓練を行っている。夜間想定では1人の職員体制で何が出来るのかを確認している。	

グループホームこだま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	否定的な言い方は避け、相手の立場になって考えるようケアの統一を図っている。	家族のように接する中で認知症の理解を深め馴れ合いにならないよう言葉遣いには特に気を付け接している。一人で寛げる時間の確保や排泄時の配慮等、気配りを怠らないよう心掛けている。呼び掛けは家族了解の上、苗字や名前に敬意と親しみを込め「さん」付けでお呼びしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	朝の服装選びや踏み台昇降の目標回数などご本人様に確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自室で過ごされたい方は、自室へ食事をお持ちし対応している。また、離床時間の短い方への対応として、寂しくならないよう小まめな訪室に心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	タンス内は季節に合った服装を整え、整理整頓も定期的に行っている。また、離床時は整髪支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の重度化に伴い、共に準備を行うことはできなくなったが、同じ空間内で調理を行うことにより、匂い、音を通じて食事をより楽しんで頂けるよう心掛けている。	食事は職員と共に話をしながらの楽しい時間となっている。おかゆの方が多く、副菜をミキサーにする方、分割食の方などもあるが、ほとんどの方が自力で食事が出来ている。献立は1ヶ月毎に実施した食事を参考に年間のメニューを決め職員が調理をしている。食材は週2回の買い出しとホームの畑で栽培した安心・安全な野菜を中心に使用している。家族会、節分、正月、クリスマス等には季節感のある物中心に提供し楽しい食事を演出している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	最低年に1回採血検査を行い、栄養バランスについて個々に対応している。また、体調を見ながら、分割食、ミキサー食対応としている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは、歯周病ケアに努め、ブラッシング支援を行っている。義歯洗浄や歯ブラシ交換を小まめに行っている。必要に応じて、歯科受診の支援も行っている。		

グループホームこだま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日排泄記録を付け、排泄状況の把握に努めている。時間誘導や体調を見ながら対応している。	排泄時、多くの方が一部介助で、全介助の方が若干名という状況である。各利用者の排泄記録を参考にパターンを掴み、2～3時間おきに声掛けをトイレへお連れしている。排便については野菜を多く摂取することと個々の状況にあわせ薬をコントロールすることで定期的な排便に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜多めのバランスの良い食事と水分多めに心掛けている。また、踏み台昇降運動や軽体操をほぼ毎日行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は月・木曜日と決めているが、皮膚トラブルや排泄で失敗した際は、その都度シャワー浴対応としている。また、夏場は土曜日にもシャワー浴支援を行っている。	二人でも入れる広く明るい浴室にはリフト浴の設備もされている。全利用者が介助を必要としている状況である。拒否の方もなく、基本的には週2回、夏場は3回、また、シャワー浴も併用し気持ち良く過ごしていただいている。入浴剤も使い季節に応じバラ湯、菖蒲湯等を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない方には、眠るまで側で一緒に過ごし対応している。定期的な巡視があり、安心されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服されている薬の副作用や用量を把握し、定期受診の際に確認している。また、毎日の服薬セット時、ダブルチェックを行うと共に、内服確認の徹底に心掛けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	音楽の好きな方と共に、小中学校へ音楽鑑賞に出掛けたり、室内やテラスには、観葉植物や寄せ植えを置き、水やりを手伝って下さる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の重度化に伴い、全員で出掛けることはなくなった。小学校の運動会や音楽鑑賞等、状態の安定した利用者様を中心に外出支援を行っている。	外出時、車イス使用の方が若干名おり、他の方は手引き、歩行器使用である。平均年齢91.2歳、介護度3.1と重度化が進み外出が年々難しい状況になっているが、小学校の音楽会、運動会、中学校の文化祭には出掛けている。また、日によってはホームの畑に行くこともある。更にドライブを兼ね花見、菜の花見物等にも出掛けている。	

グループホームこだま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身でのお金の所持は難しい為、ホームで管理している。必要に応じて使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方は、好きな時に連絡している。また、希望者には電話の提供を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、歩行時に必要な手すりが設置されている。ソファもありくつろげる空間となっている。また、掲示板には、行事写真だけでなく季節を感じられるフラワーアレンジメントや工作の飾りも工夫している。	1日の大半を過ごすリビングには大きな窓からいっばいの陽が注ぎ居心地の良さを感じる。正面壁には音楽療法で使う職員手作りの「となりのトロ」の大きな絵画が飾られ、エレクトーンに合わせ歌を歌っている利用者の姿が思い浮かべられる。掲示板には七夕や音楽会見物などの写真が飾られている。そのような中、ソファに腰かけ話をしたり、テレビを見て自由に寛いでいる利用者の姿が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニングホールや2階に上がるとすぐにソファがあり、誰でも気軽に腰かけられることができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の趣味を取り入れ、観葉植物をお部屋に置かれている方や、家族写真を飾られている方もおられ、各部屋は個性的である。	清掃が行き届いた綺麗な居室には利用者思いの使い慣れた家具や家族の写真、テレビ等が持ち込まれ自由な生活を送っている。空調はエアコンと床暖房併用で快適に過ごせるよう工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面は車イス使用となっていて、ご自身で身だしなみが行えるようになっている。また、トイレも手すりが設置されており、排泄自立を促している。		